



CSDA

千葉県スキューバダイビング協会 20周年の軌跡

1978年7月1日、千葉県立磯辺高等学校で設立理事会開催する。会長・廣川善任、副会長・宇佐美敏夫・安永周二、常任理事・小沢幸男・木下潤・平松雅之・鈴木修・宇佐美敏夫・安永周二、監事・鈴木修・佐々木礼子で発足する。(敬称略)

この年協会主催スポーツ潜水初級講習会が千葉県総合運動場と海洋科学技術センターで初めて開催される。また布良漁協の魚礁調査を実施する。1983年まで、県内の漁業組合に潜水講習、魚礁調査を通して、協力する。

1979年3月25~27日、海洋科学技術センターでバッチテストシステムに則り、千葉県指導者講習会を開催する。専門委員会として、指導委員会を委員長・栗谷川裕造氏、競技委員会・海洋委員会を委員長・安永周二氏として設置する。

・ 9月23日 - 24日、日本スキューバダイビング協会・読売新聞社主催、第一回全国

距離の経度		事業計画	
		千葉県スキューバダイビング協会 設立準備委員会	7月17日 神奈川県潜水大会 選手派遣
4月21日	水中応力一級校規則 制定委員会	千葉県高校	10月 日 昇昇使用許可願
7月1日	理事会	磯辺高校	10月10日 バッチテスト初級 検定 海洋科学技術センター
7月1日	千葉県		11月 日 理事会 磯辺高校
7月25日	スポーツ潜水講習会	千葉県総合運動場コナラ島	11月17日 千葉県国際初級講習会 県総合運動場
8月20日	神奈川県水中競技規則 講習会 従員派遣	神奈川県スポーツ会館	11月26日 教員講習会 会館
8月27日	千葉県・神奈川県 水中応力一級校規則 制定協議会	神奈川県スポーツ会館	12月 日 修補 船盟願
9月3日	海底清掃の誓い		2月 日 バッチテスト初級・中級検定 海洋科学技術センター

1978年度事業計画案

スポーツ潜水競技大会を主管する。水中ホッケー競技をイクシビションとして日本に紹介する。



JSDA会長・高島国昌氏あいさつ



1980年、栗谷川裕造氏が副会長に、河北尚夫氏が常任理事に就任する。指導委員長に河北尚夫氏が就任する。

・ 10月19日、白浜漁業組合・海士連協の潜水講習会に講師を派遣する。1983年まで、各漁協の講習会に講師を派遣する。



指導委員長・河北尚夫氏の学科指導

1981年会則を改定。運営委員会（常任理事会）メンバーとして、会長・廣川善任、副会長・安永周二・栗谷川裕造、常任理事・河北尚夫・小沢幸男・木下潤・平松雅之・神崎芳明、監事・鈴木修を選出する。（敬称略）

・ 6月17日～19日、海洋調査員資格認定プログラムを日本大学生産工学部で開催する。

・ 9月15日、第三回全国スポーツ潜水競技大会を千葉県総合運動場にて主管する。

・ 11月22日～24日 JSDA のメンバーとして、指導者養成コースを海洋科学技術センターで行う。この年から JSDA と共催のプログラムを多数実行する。SLAMレスキュー・プログラム、バッチテスト、海底清掃等。



白浜漁協組合長・加瀬勲氏と組合員

川津漁協潜水講習会、CPR実習 1981年5月17日



海洋委員長・安永周二氏の CPR 実技指導

1982年、御宿漁協、岩和田漁協・海士のための潜水講習会に講師を派遣する。



東京YMCAにてJNASA発会式



1983年、JSDAを脱会し、YMCAメンバーとJNASA設立準備を始める。

・4月17日、JNASAの設立メンバーとして、JNASA発会式に参画する。このため、CSDAの事業を縮小する。



1984年、廣川善任会長はJNASA会長職に付き、CSDA会長職を休職し、安永周二副会長が会長代行となり、事務局を磯辺高校から千葉YMCAに移す。

・2月19日、JNASA主催第1回日本水中ホッケー大会を千葉県総合運動場で開催主管する。

・9月16日、JNASA主催第2回日本水中ホッケー大会を千葉県総合運動場で開催主管する。



9月16日第2回水中ホッケー大会



Japan Aqua Club

(JAC):ダイバーをクラブ化しJNASA活動を支援するために専門委員会・JAC小委員会を設立する。この委員会のメンバーは、岩瀬康彦(YMCA、JNASA)、広田光司(CSDA、千葉YMCA)、高田正壽(JNASA)、安永周二(CSDA、JNASA)。

5月21日、CSDA/JACが日本で初めて、CMAS(世界水中連盟)のOCC(トレーニングセンター)に加盟が認められる。



1984年5月21日 CMAS・OCC 加盟認可される。

11月19日、千葉YMCAで千葉県の海とダイバーと漁業を考えるシンポジウム開催する。



朝日新聞 11月20日

12月2日、世界水中連盟（CMAS）会長：ジャック・デュマ氏、CSDAを訪問する。

CMASの活動体を日本に作りたい旨説明があり、協力するように依頼される。CSDAとしては、将来CMASが日本を代表する組織を作るならばこれに協力することを約束する。

CSDA事務局・千葉YMCAにて



CMAS会長：デュマ氏

1985年、広田光司氏が事務局長となる。

- ・ 9月15日 - 16日、JNASSA主催、第3回日本水中スポーツ競技大会・水中ホッケーの部、フィンスイミングの部を千葉県総合運動場にて開催主管する。
- ・ 10月24日、FEJAS水中ゲーム小委員会設立の会を千葉YMCAで開催、CSDAが主管する。
- ・ 11月20日、日本水中ホッケー委員会を設立し、事務局を千葉YMCAに置く。CSDAはJACを通じて日本水中ホッケー委員会運営に協力し、水中ホッケーの用具の使用を認可する。



朝日新聞 1984年12月3日

第一回目の大会

1986年

- 9月23日、第4回日本水中ホッケー選手権大会を千葉YMCAで開催主管する。

1987年

- 9月23日、第5回日本水中ホッケー選手権大会を千葉YMCAで開催主管する。



朝日新聞 1984年1月

魚礁調査協力は、1978～1982年まで右記のように続けられた。

県協会と漁業組合との協力関係			
昭和53年	11月26日	漁業調査	(東京漁協)
昭和54年	6月24日	漁業調査	(白浜漁協)
	8月11日	漁業調査	(宇治野田漁協)
	8月22日	漁業調査	()
昭和55年	1月27日	漁業調査	(白浜漁協)
	3月10日	漁業調査	(東京漁協)
	5月3日	漁業調査	(白浜漁協)
	8月22日	漁業調査	(白浜漁協)
	10月12日	漁業調査	()
	10月19日	漁業調査	(宇治野田漁協)
昭和56年	10月18日	漁業調査	(白浜漁協)
	5月17日	漁業調査	(川津漁協)
	5月31日	漁業調査	(白浜漁協)
	9月6日	漁業調査	(宇治野田漁協)
	9月19日	漁業調査	(白浜漁協)
昭和57年	10月11日	漁業調査	()
	4月21日	漁業調査	(白浜漁協)
	4月29日	漁業調査	(白浜漁協)
	6月11日	漁業調査	(朝霞、赤羽玉漁協)
	12日	"	()
	18日	"	()
	19日	"	()
	7月10日	漁業調査	(白浜漁協)
	11月23日	漁業調査	(白浜漁協)
	協力漁協	有賀漁協 白浜漁協 宇治野田漁協 遠見漁協 川津漁協 宇治野田漁協 朝霞漁協 赤羽玉漁協 白浜漁協	

1988年、事務局を成田市に移す。

1989年

3月5日、第6回日本水中ホッケー選手権大会を東京YMCA・東陽町ウエルネスセンターでCSDA/日本水中ホッケー委員会として、開催主管する。



副知事とカパロソ氏（YMCA）

1990年会則改定。

安全潜水の教育活動の他に環境保全をも目指すように会則を改定する。'84シンポジウムに則り、珊瑚礁の島々の情報収集を開始する。調査員をフィリピン・セブ島に派遣する。



PCSSD 刈が氏と安永氏

1991年、1月10日海洋委員会開催。そこで、発展途上国における珊瑚礁の破壊の現状が、海洋委員会に報告され、日本のダイバーであるCSDAとしても出来ることはないか、JNAS A技術委員会と共にプログラムの作成に入る。

3月、コーディネーターをセブ島に派遣する。

7月 - 8月、JNAS Aと共に指導委員長・河北尚夫氏が、PJFUPプログラムを実行する。



YMCAにて、指導委員長・河北尚夫氏の技術指導



パリカサグ島でのダイブマスター訓練



河北氏によるダイブマスター指導

1992年、初期の目的を達成したので、縮小していた県協会の活動を再開するために、JNASSAを脱会する。千葉県に限らない組織作りを目指し21世紀の世代に美しい海を残す活動と海環境保全を目的に千葉県スクーバダイビング協会の通称を、CSDAとする。会則改定。

3月25日 PJFUP Japan を設置し、代表・河北尚夫氏を選ぶ。これより、CSDA/JACは積極的にこのプログラム支援を行う。



YMCAディレクター：クリス・カバロソ氏と PJFUP Japan の設立を確認する。

安永氏による

PJFUP プログラム・チャンバー・トレーニング



(セブ・フィリピン海軍基地)



1993年 5月5日、PJFUP
 実施プログラム要項作成。
 実施要項B案に従って、A I I、
 C S D A / J A Cの協力により
 セブにP J F U Pセンター設立
 準備始める。



セブYMCAにて - PJFUPメンバー



PJFUPセンター所長 エドゥイ・フランシスコ(センター内)

1994年
 7月、PJFUP 参加者のための
 訓練場として、セブ島にPJFUP
 センター設立。

11月16日、**ダイバーの海環境を守る会**
 (REDN) 設立し、次の活動为目标とする

1. コーラルリーフ保全の啓蒙パンフの作成配布
2. コーラルリーフを有する発展途上国へのコーラルリーフ保全の援助プログラムの推進(PJFUP)
3. リーフ・エコロジー・ダイバーの養成
4. 各国関係団体との提携



セブ島ブヨンビーチ

1996年 安全潜水のための
のナイトロックス・コース
開催する。

- ・ 3月8日 - 9日 YMCA・Y
- Med コース、D A
Nオキシジェン・コースを
日本大学・生産工学部にて
開催する。



1998年1月8日、NSCのトレーニング・エイジ
エンシイーとなる。

CSDA/YMCA Scuba Program
として、公共の場にファーストエイドとCPRの講
習を行う。

1997年 会則改定。

安全委員会設置する。

安全委員会をCSDA/
YMCA SCUBA Programと
呼ぶ。



CSDA/YMCA Scuba Program